

- ◆ 東海財務局では、平成28年10月に若手職員自らが地域貢献を目指し、若手プロジェクトチーム「スプラウト」を発足。愛知県東浦町が取り組む「県職員市町村サポーター制度会議」(JR東浦駅周辺基本構想検討会)に参画するなど、活動を開始。
- ◆ 静岡財務事務所の若手職員は、大学のゼミ(日本の財政の在り方についての議論等)に参画し、学生をサポート。
- ◆ 日本政策金融公庫と連携し、今後活躍が期待される当局と同公庫の新規採用職員に対し、地方創生に係る合同研修を実施。

1. 成果事例の概要等

【若手地域連携プロジェクトチームの発足及び愛知県東浦駅周辺基本構想検討会へ参画】(東海財務局)

- 若手職員による自発的な地域貢献を目指し、平成28年10月に若手地域連携プロジェクトチーム「スプラウト」を発足。
- 愛知県東浦町の若手職員と愛知県職員が取り組む「県職員市町村サポーター制度会議」(JR東浦駅周辺基本構想検討会)に対して、「スプラウト」メンバーの参加を打診したところ、同町より賛同が得られ、参画が実現。

【静岡財務事務所職員としての業務経験や知識を活かし、常葉大学ゼミをサポート】(静岡財務事務所)

- 28年11月に常葉大学へ財政に係る講義を実施した際に、同大学より、企業と経営環境を考えるゼミにおいて、財政問題を考えることが企業経営を考えることにもつながるため、グループワークで議論する際に、当所職員が参加し、学生をサポートして欲しいとの要請がなされた。

【日本政策金融公庫の新人職員との合同研修】(当局及び管内財務事務所新規採用職員への取組)

- 日本政策金融公庫との間において、今後地方創生への活躍が期待される双方の新規採用職員に対し、合同で地方創生に係る研修を行うことで合意。29年2月、28年度新規採用職員を対象に合同研修を開催。

2. これまでの取組の成果等

【「スプラウト」メンバーによる愛知県東浦駅周辺基本構想検討会への参画】(東海財務局)

- 検討会議は、平成28年9月から29年1月にかけて計5回の会議が開催され、当局から2名が参画。JR東浦駅周辺基本構想の具体化に向け、東浦町の「コンパクトなまちづくり計画」の中で定める「駅前商業拠点の再整備」や「駅東側の未利用地の活用」などの課題に対し、解決策の提案やまちづくり計画の具体化、事業手法について検討。
- 参加した当局職員からは、同町の住民が町外へ仕事に出かけることが多い地域特性を踏まえ、駅前に保育園の送迎バスが来るまで一時的に子供を預けられる「保育送迎ステーション」を設置することを提案。



発表する「スプラウト」メンバー

【静岡財務事務所職員としての業務経験や知識を活かし、常葉大学ゼミをサポート】(静岡財務事務所)

- グループワークでは、学生が話しやすい環境作りのため、当所から年齢が近い若手職員3名を派遣し、学生からの質問への回答や議論におけるポイントの助言等のサポートを実施。

【日本政策金融公庫の新人職員との合同研修】(当局及び管内財務事務所新規採用職員への取組)

- 当局、同公庫から28年新規採用者、計31名が参加し、初めに愛知県豊根村地域振興課長より「あいちのてっぺんで地方創生」と題して講演がなされ、その後、同村での取組に関して、当局・同公庫ができる支援策をグループで討議して発表。同課長からは「次期総合戦略の参考にしたい」との発言がなされた。

若手職員の声

- ・地域の開発計画に係る行政プロセスも学べ、勉強になった。(東浦駅周辺基本構想検討会)
- ・学生から次々とする斬新な財政健全化策や鋭い質問に関心した。(常葉大学ゼミ)
- ・他組織の考え方に接し、業務をどう地方創生に活かすか考える良い機会となった。

(日本政策金融公庫との合同研修)

3. 今後の課題と東海財務局等の対応

いずれの取組においても、若手を中心とした活動は、まだ緒に就いたばかりのため、地域のニーズを的確に把握しながら、継続的に活動し、着実に地域に貢献できるよう努めていく。